
crazy boyS

アイス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

c r a z y b o y s

【Nコード】

N 0 9 3 2 J

【作者名】

アイス

【あらすじ】

主人公天草 真幸あまぐさまゆきといかれた愉快な仲間たちと一緒に学校を変えていくドタバタストーリー

出会い

はあ 本当つまんねえ。

俺、あまくさ まなき天草真幸はいつものように集会をサボって屋上で寝ていた。

何でわざわざ集会つてあんだ？

あんな校長ハゲの話し誰も聞いてねえのに…

そんなことを考えながら眠りに落ちた。

「……………い！！」なんか聞こえる気がする。

「おい！！」

やっぱり聞こえる。でも関係ないだろう。

「おい！！何回言うたらわかるんや。」

流石に鬱陶しさがピークに達した俺はおもいつきり体を起こした。
ゴツンッ

なにやら鈍い音がした。後強烈な痛みが頭を襲い、手で押さえた。
そして隣で同じ事をしているやつが一名……………。

黒髪で、ヘッドフォンつけてて…「ぶぎゃー」とか奇声をあげている。

俺と同じ高2か？

いや違う。でも1年でもないし、2年でもないし、誰？

そんなことを考えてると、その黒髪ヘッドフォン野郎が

「急に起きるなんて危ないやろ。ホンマ痛いわっ！謝れ金髪犬歯」
などとかつてにキレてきた。

つか金髪犬歯って俺の事かっ!？

「さっせん」

面倒かったし眠かつから謝ったが、なんだコイツ？話しかた変だし…
とりあえず立ち上がるうとすると、頭を打ったせいかわらついて…

……

ゴンッ

鈍い音がしたので下をみてみると黒髪ヘッドフォンが白目をむいて意識を無くしていた。

「まあいいよね」

自分に言い聞かせるように言いながら、珍しく俺は一時間目から授業にでた。

出会い（後書き）

この作品を読んでくれてありがとうございます！初投稿なのでいろいろおかし
い所があるかと思いますが・・・。
ぜひ感想を教えてください。

馬鹿力

キーンコンカーンコーン

気づいた時には3時間目の前の休み時間だった。気にせずまた寝ようとする、

あの屋上であったヤツが俺めがけて突進してきた。

「金髪犬齒俺をホンマに殺す気かっ!!」

いや、今の突進で俺が死にそう。

「ああわかったから勘弁してくれ」

「じゃあ許す代わりに俺の友達にならへんか!？」

まて、平気な面してなにコイツ言ってるんだよ。つか展開かわりすぎ! クラスのみんな俺らのことガン見してるし…

「じゃあないなあ」俺はあきらめた。

「俺は鳳拓也おおとりたくや!!拓也でええや」

「俺は天草真幸よびかたは任せる」

こんな感じで拓也は友達になってしまった。

色々拓也と話した。めっちゃ面白かった。

それで、見たことないと思ったら今日入った転校生だった。そういえば昨日女子が騒いでたな

拓也とあつてから3日たち前より少し1日が楽しく感じるなんて思っ…

「ぎゃああああ」拓也の悲鳴で思考がぶっとんだ。

「なんだ!?!わあああ」

俺は笑うしかできなかった。
そしてトサカ頭の仲間が、悲鳴をあげて逃げて行った。

馬鹿力（後書き）

馬鹿力ですむんかい！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0932j/>

crazy boyS

2010年10月9日05時34分発行